九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[003] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10264

出版情報：語文研究. 3, 1955-11-30. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編集後記

○ まず年内に第三号が発刊できたことを喜ぶと共に、これが会員各位の尊い御援助のたまものであつたことを特記して厚く御礼申し上げる。

○ 本号は福田教授の「倭建の命」に関する論攷を巻頭に、以下大原・井手・横山・佐田・寺園各氏の論説を年代順に排列、杉浦教授の「芭蕉連句評釈」を以て巻尾にすえた。即ち「古事記」・「落窪」・「平家」・「近松」・「成章」・「蘆花」・「芭蕉」と上代から明治までバラエティに富んだ新しい見解が続いて、興味深くお読み願えることと思う、御批判をお待ちする。

○ なおこの他にも多くの玉稿を頂いたが、規定（四百字原稿用紙二十枚前後）にそぐわなかつたり、特殊な印刷技術を要するものは止むを得ず割愛させて頂いた。御投稿下さつた各位に深謝すると共に、規定は厳守して頂きたいことをお願い申し上げる。

○ 明年を以て、我が国語国文学の講座が開設されて三十週年を迎えることとなつたので、編集部ではその記念号（第四・第五号合併）を刊行すべく目下計画中である。何とぞふるつて御投稿、御声援下さるようお願い申し上げる。特に背水の陣をしいて編集している現状を御賢察の上、誌費未納の向きは宜しく御配慮の程を重ねてお願い申し上げる。

○ 近頃国文学者を誹謗するようなよまよいごとが横行している。営々として築き上げられた言語学・国語学・国文学の大系が一外国語との語呂合わせの遊戯で覆つたらおかしなことだ。もとより過去における国語国文学徒の研究態度に越度がなかつたとはいえないが、私達の学問は現在この説を手放しで受け取れる程に浅薄な粗雑なものではないはずである。そんなことよりも問題は自分こそ真に科学的な民主主義の第一人者であるという自己陶酔に陥つている精神状態にあるのではなかろうか。

○ 又年の瀬。いつも師走の寒い北風が玄海に白い浪頭を立てて渡つて来ると、福博の街の隅々までが急に気忙しく歳末に駆り立てられる。だが今年は不思議なくらい例年になく穏やかな毎日である。とはいえ、日一日と年の終りに近づきつゝあることは事実である。本誌がお手元に届く頃は暦も改つているかも知れないが、何よりもよき新春をお迎え下さるようお祈り申し上げて筆を止める。

一九五五・一二・一〇・

（春日記）

三十周年記念号原稿募集

締切　昭和三十一年四月三十日

（四百字詰原稿用紙二十枚前後とする）

七月下旬発行予定